

## 本県水産業における現状について

# 1 本県水産業における現状について

地域社会における水産業

漁業・養殖業の動向

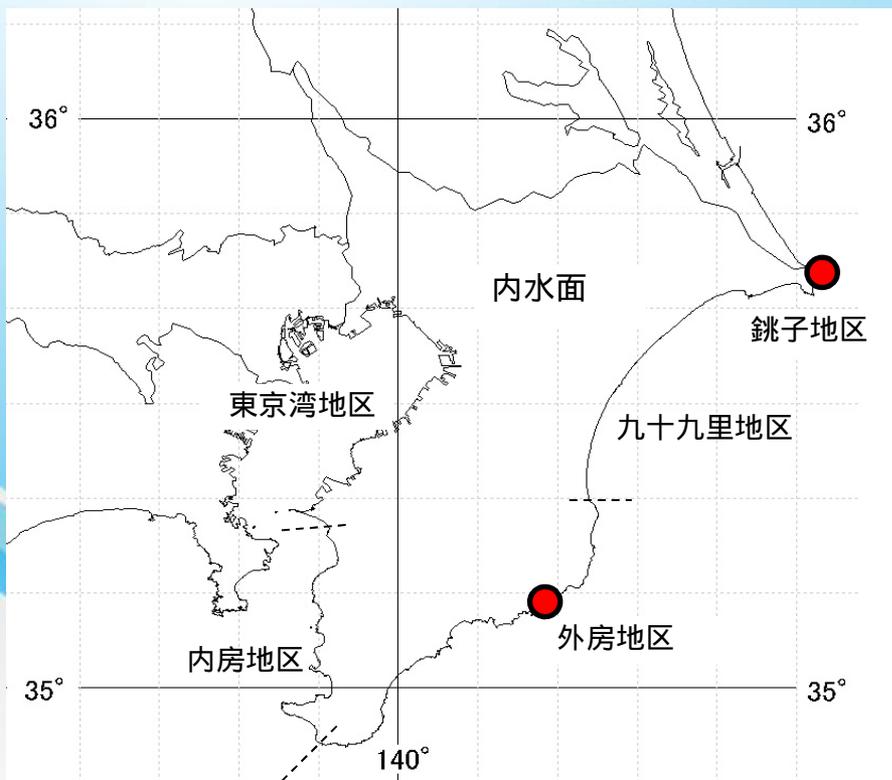
漁業経営の動向

漁業の担い手の動向

漁業協同組合の動向

流通加工の動向

# 地域社会における水産業について

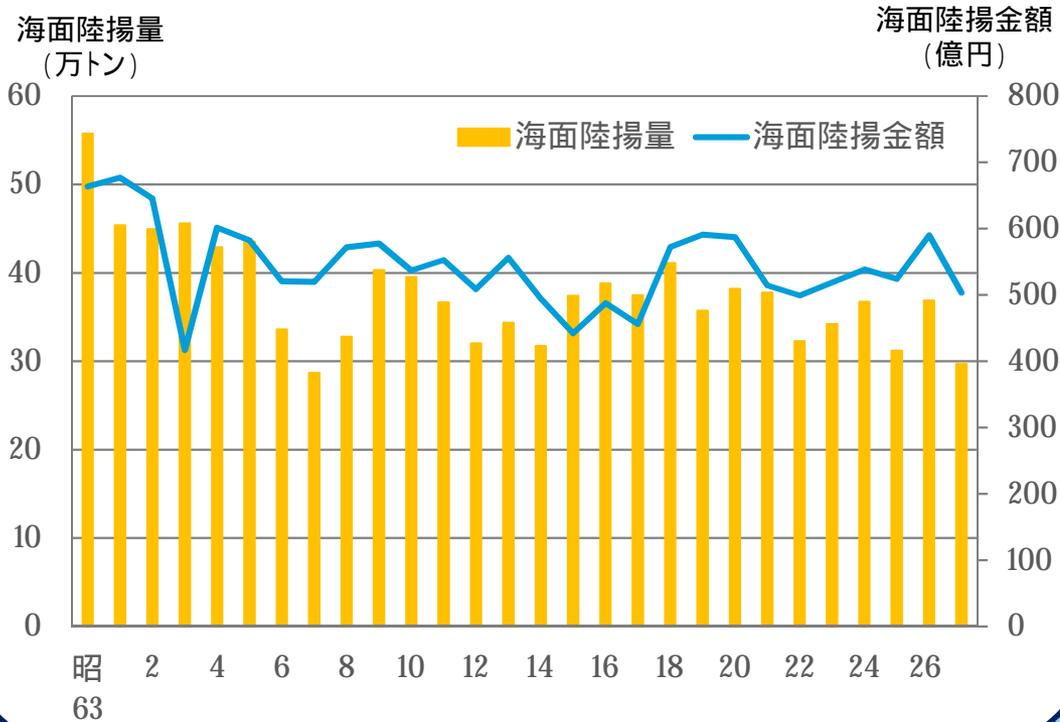


## 千葉県の水産業の特徴

- 内湾、外洋、岩礁域、砂浜域、内水面など多彩な漁場
- 沖合は親潮と黒潮が交わる日本有数の好漁場
- 優良な漁場により様々な漁業が発展し、地域経済を支えている
- 他県船含め多くの漁船が水揚げする全国トップレベルの漁港（銚子、勝浦）を有し、水産加工業・流通業が発達

# 漁業・養殖業の生産の動向

## 海面陸揚量・金額（属地）の推移



## 分析

海面陸揚量  
直近10年では30-40万トンで推移している。

海面陸揚金額  
直近10年では500-600億円で推移している。

県内漁港への他県船も含めた漁業・養殖業の陸揚げ（水揚げ）の量・金額

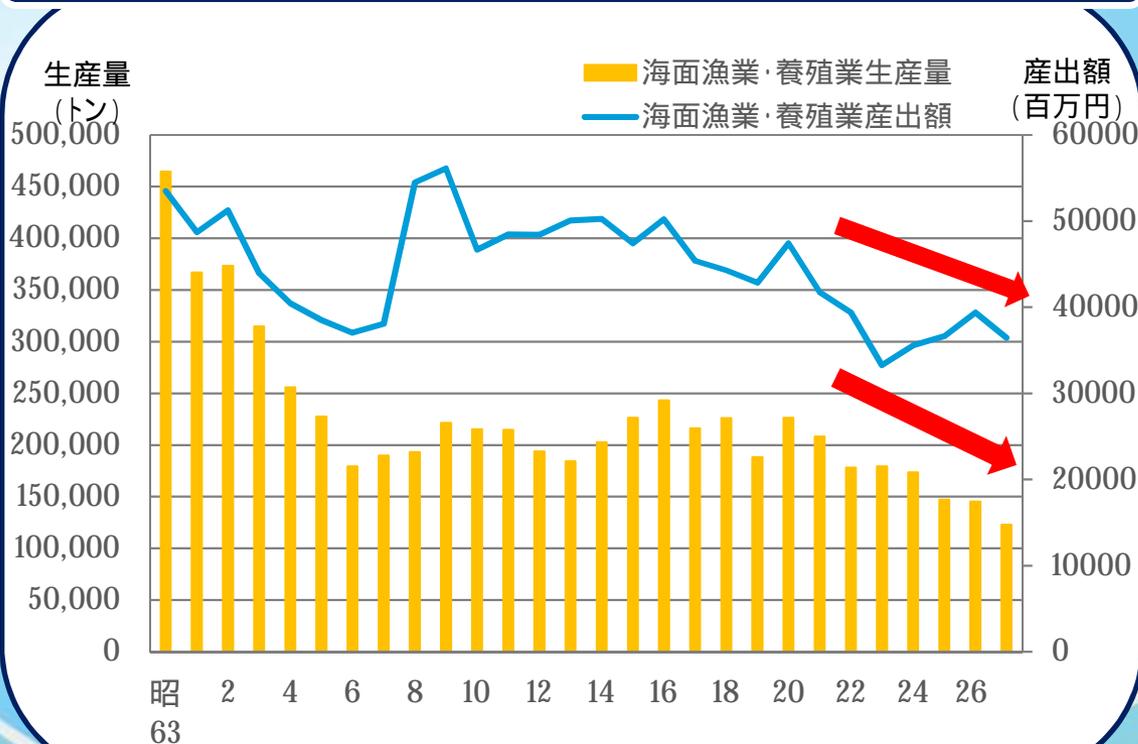
## 現状と課題

県内漁港における他県船を含めた陸揚量・金額は全国トップクラス（陸揚量：全国2位、金額：全国4位（平成26年））。

他県でも高度衛生管理型市場や大型船用の岸壁整備が進められており、競争が激化している。

# 漁業・養殖業の生産の動向

## 海面漁業・養殖業生産量・産出額（属人）の推移



## 分析

**生産量**  
直近10年間では25万トンから15万トン以下に減少している。

**産出額**  
長期的には減少傾向にあるが、直近5年間では増加傾向にある。

県内漁業者・養殖業者の水揚量・金額

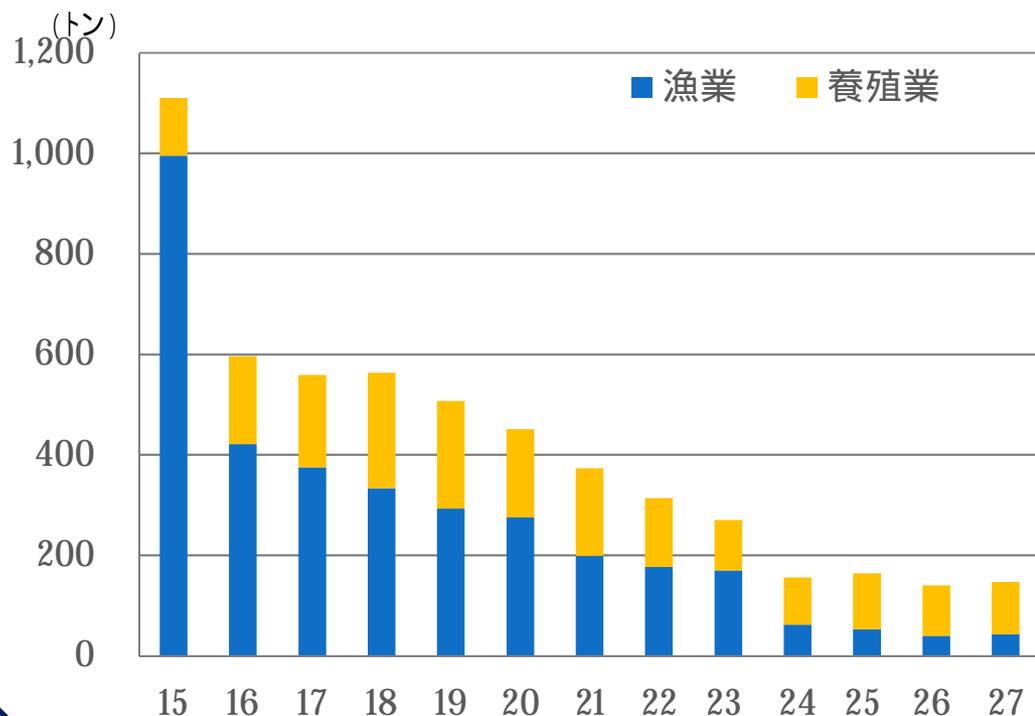
## 現状と課題

海面漁業・養殖業産出額は東日本大震災（原発事故）の影響による減少からやや回復しているが、生産量・産出額共に長期的には減少傾向が続いている。

県内の漁業・養殖業では漁業就業者（生産者）数の減少、主要な水産資源（カタクチイワシ等）の低迷や漁場環境の変化によるノリ生産の低迷が課題となっている。

# 漁業・養殖業の生産の動向

## 内水面漁業・養殖業生産量（属人）の推移



## 分析

### 漁業生産量

平成15年から16年にかけて大きく減少し、平成23年以降さらに減少している。

### 養殖業生産量

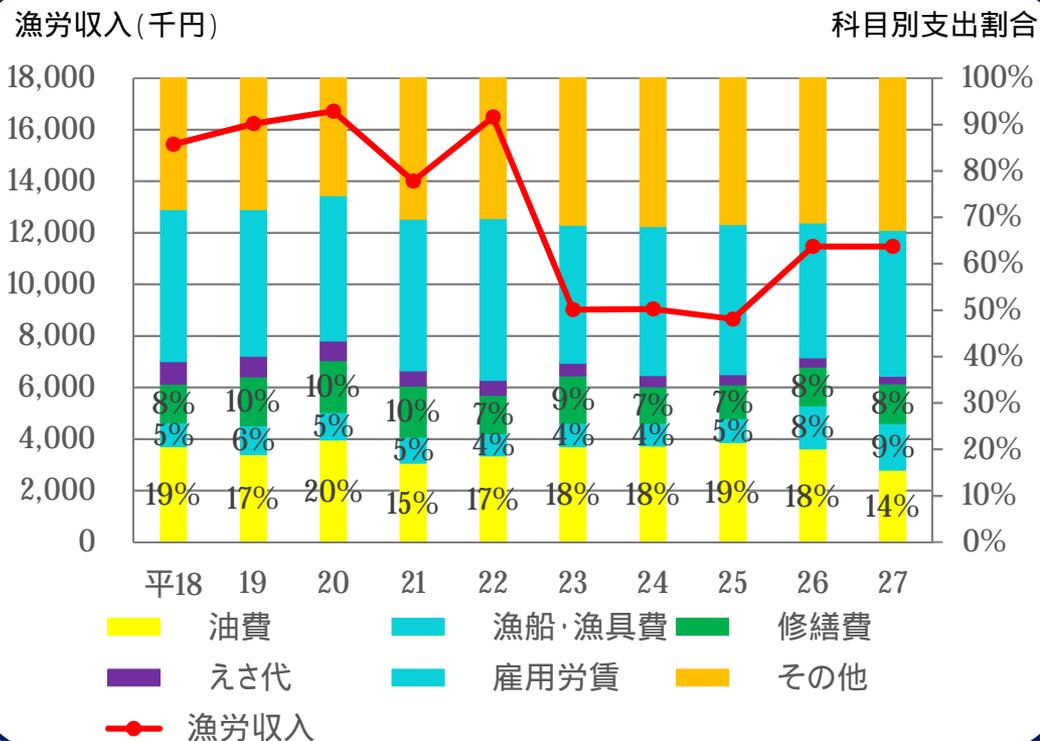
長期的には減少傾向にある。

## 現状と課題

内水面漁業・養殖業ともに生産量は減少傾向にある。特に利根川のシジミ資源の減少や東日本大震災（原発事故）の影響により、漁業生産量が大きく減少しており、漁場環境の悪化や放射性物質による出荷制限、生産者数の減少が課題となっている。

# 漁業経営の動向

## 沿岸漁船漁業の経営体の収入と支出（太平洋中区）



## 分析

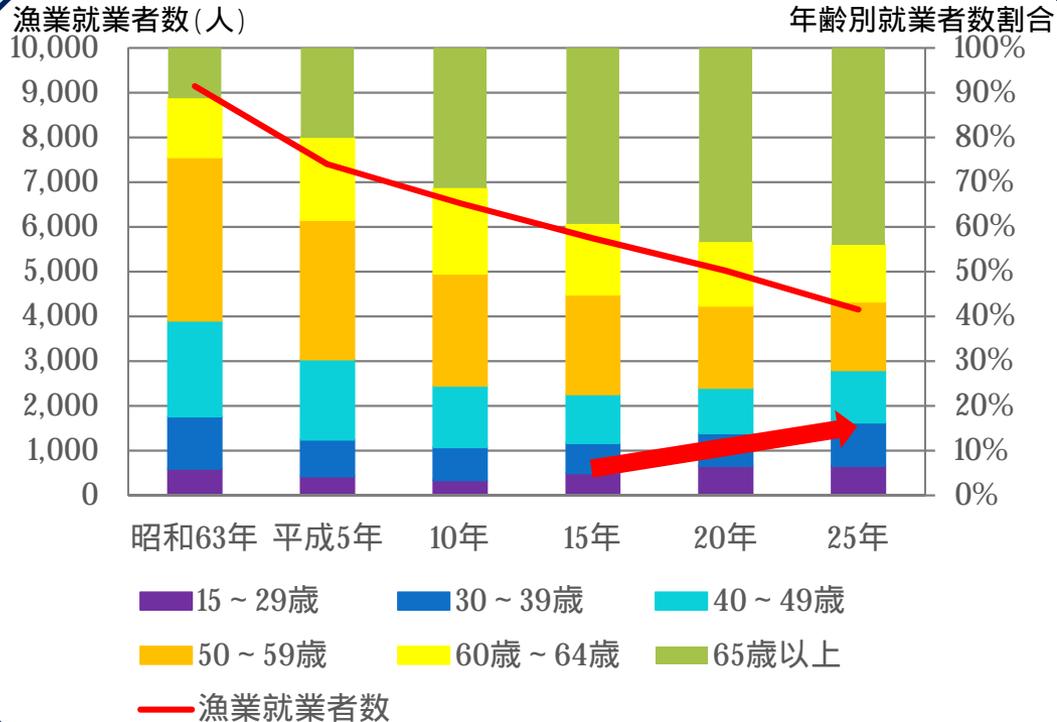
- 漁業収入は減少傾向にあるが、直近では増加しつつある。
- 油費（燃油代）の負担は直近では低くなっている。
- 漁船・漁具費、修繕費の負担が年々増大している。

## 現状と課題

漁業収入は東日本大震災の影響などによって、平成23年以降厳しい状況が続いているが、直近ではやや回復している。漁業収入では、マダイやヒラメなどの魚価が低迷していることや、漁業支出では、漁船の高船齢化によって年々修繕費等の負担が大きくなっていることなどが課題となっている。

# 漁業の担い手の動向

## 年齢別漁業就業者数の推移



## 分析

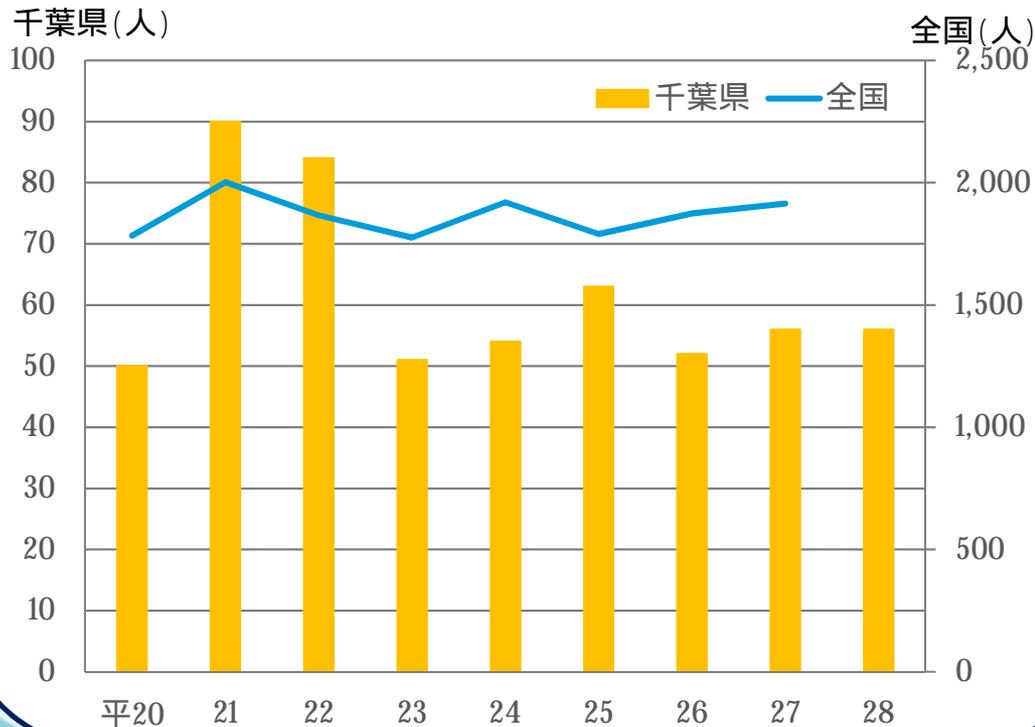
- 漁業就業者数全体は減少傾向にある。
- 65歳以上の割合の増加は落ち着きつつある。
- 50歳未満の割合が平成15年の23%から平成25年には28%に増加している。

## 現状と課題

漁業就業者全体における65歳以上の割合が増加しているものの、継続的な若手漁業者の加入により、低～中年齢層の割合も増加している。しかし、漁業就業者の全体数の減少が止まらないことから、引き続き新たな担い手の確保が課題となっている。

# 漁業の担い手の動向

## 新規就業者数の推移



## 分析

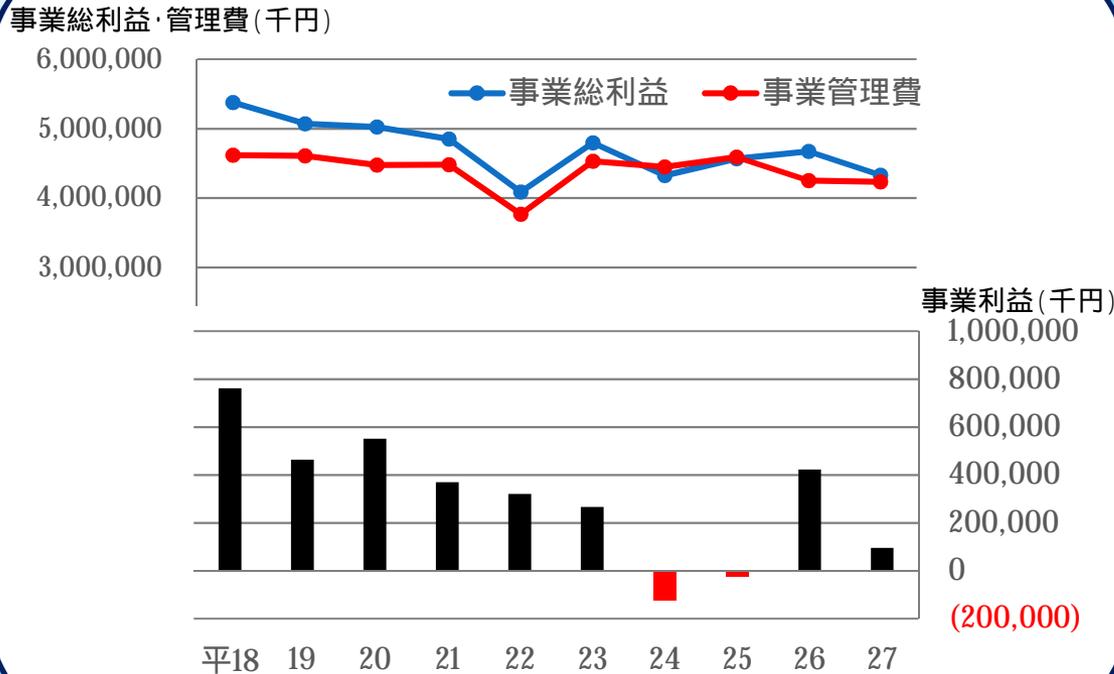
- 全国では2,000人弱で横ばいに推移している。
- 千葉県では平成21、22年に80-90人に増加したが、概ね50人程度で横ばいに推移している。

## 現状と課題

日本経済の状況が好転しており、他産業の求人が増加する中で、全国的には新規漁業就業者数は2,000人程度で維持されている。一方で、千葉県は都市部に近いことから、収入の高い他産業との競合により他県に比べて新規就業者の確保が困難となっている。

# 漁業協同組合の動向

## 漁協の収支（沿海全組合）の推移



## 分析

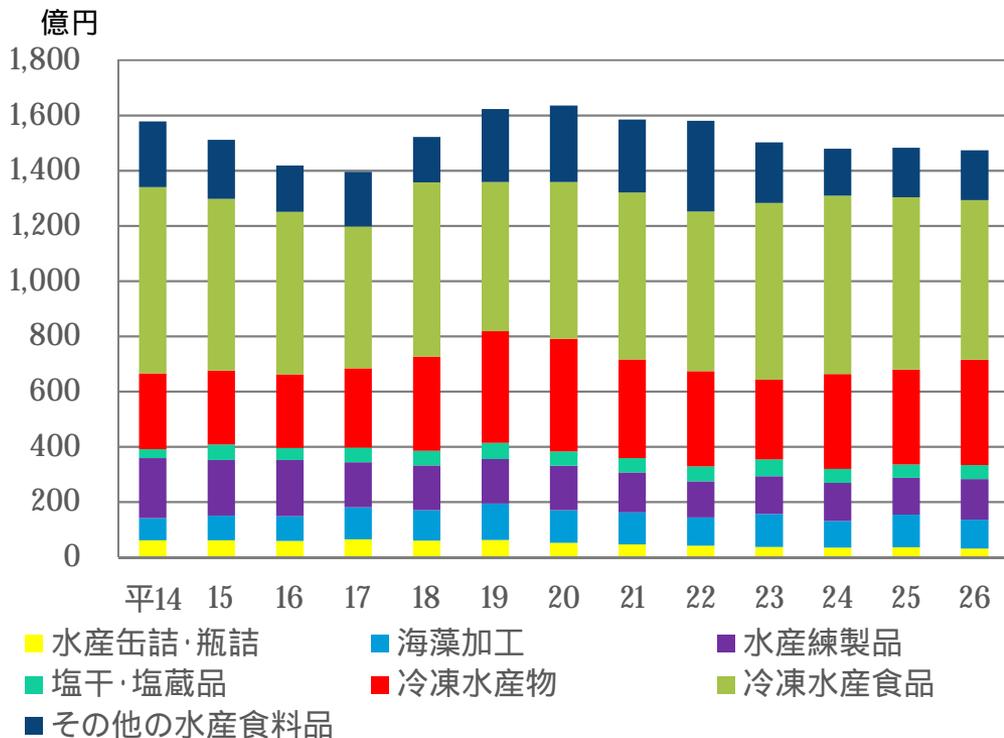
- 事業総利益は長期的に減少傾向にある。
- 事業管理費は横ばいで推移している。
- 事業利益は年々減少しており、震災の影響等により、平成24、25年は赤字が発生している。

## 現状と課題

組合員の減少や生産量の減少により、事業総利益は長期的に減少傾向にある。漁協合併が進み、1漁協あたりの事業総利益は増加傾向だが、事業管理費は横ばいで推移しており、経営の合理化などによる経営基盤の強化が課題となっている。

# 流通加工の動向

## 水産業食料品製造業生産額の推移



## 分析

- 水産業食料品製造業生産額は、1,400-1,600億円で推移している。
- 水産缶詰・瓶詰や水産練製品は減少傾向
- 冷凍水産物は近年増加傾向

## 現状と課題

水産加工業全体では年間1,500億円程度の生産額となっており、漁村地域の基幹産業として重要な役割を果たしている。県内では、銚子漁港や勝浦漁港で多く水揚げされるイワシ類、サバ類、ビンナガなどの冷凍品の割合が高く、近年増加傾向にあるが、海外での生産が主体となる等缶詰や瓶詰などの加工品は減少傾向にある。引き続き、水産加工業を安定的に支えるために原料供給基地である流通拠点漁港の整備などが重要となっている

# 流通加工の動向

## 国内消費及び県内水産物の輸出の動向

### < 国内水産物消費量の推移 >

年	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
国内消費仕向量 (千トン)	10,072	9,725	9,576	9,309	8,852	8,389	8,455	8,015	8,030	7,814

### < 県内水産物の輸出金額の推移（単位は百万円） >

年	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
輸出金額	7,461	4,766	8,183	7,323	7,850	8,943	16,019

平成28年は千葉県調べ以外の結果も含む（約47億円）

### < 県内水産物の品目別輸出金額（平成27年） >

品目	計	冷凍魚					その他
		さば類	いわし類	かつお	ぶり	びんなが	
輸出金額	8,943	6,593	520	476	387	64	903

## 分析

- 国内水産物の消費量は年々減少している（直近10年間で約2割減少）。
- 県内水産物の輸出金額は平成23年に東日本大震災の影響により、一時減少したが、増加傾向にある。
- 水産物の輸出は冷凍魚が約9割を占めている。

## 現状と課題

食文化の変化や安価な畜肉との競合により、国内水産物消費量は年々減少している。一方で、世界的には水産物の需要は増大していることから、県内水産物の輸出金額も増加傾向にあり、本県では輸出水産物のほとんどが冷凍魚となっている。

国内における需要の維持拡大や輸出促進を行うには、引き続き、食育による需要喚起や輸出に取り組む団体への支援が重要である。

## 2 農林水産業振興計画に係る漁業者の声

東京内湾地区

内房地区

外房地区

九十九里・銚子地区

# 東京内湾地区からの意見

## 主な意見

項目	内容
漁場環境・資源	<p>貧酸素水塊対策、水質の悪化に伴う漁場環境の改善対策を講じてもらいたい。下水処理における残留塩素なども環境に影響しているのではないか。</p> <p>アサリの資源減少や漁場改善対策に取り組んでいただきたい。</p> <p>ホンビノスガイの資源管理について県の調整指導をお願いしたい。</p>
担い手	<p>新規就業者について、地域外からの着業であっても歓迎するが、漁業で生計を立てることが難しい状況である。</p>
流通加工・販売	<p>スズキやホンビノスガイなど漁獲物の単価向上対策について県の支援をお願いしたい。</p>

# 内房地区からの意見

## 主な意見

項目	内容
資源	水産資源の維持増大を第一に取り組んでいただきたい。
担い手	定置網の労働力確保について検討願いたい。
	新規就労者受入のための住居施設等の整備に県の支援を願いたい。
漁港	漁協事務所や共同利用施設の整備を自主的に進められるよう漁港用地の使用制限の緩和をお願いしたい。
流通加工・販売	中小企業では対応が難しい国内外の具体的な消費者ニーズの情報提供をお願いしたい。

# 外房地区からの意見

## 主な意見

項目	内容
漁業調整	大型船（大中型まき網漁業）の漁獲能力も向上しているので、小型船が安心して操業できるよう実態にあった住み分けを調整してほしい。
漁船漁業	ふさみ丸の試験調査情報は操業に有益であり、今後も現場の意見を聞きながら調査を実施していただきたい。
担い手	新規就業者を増やすには地域として取組むこと、独立するには資本が必要であり、地域として支えられる仕組みが必要。一方でキンメダイは漁業者が飽和状態であり、これ以上増やすことは困難。
流通加工・販売	キンメダイなど水産物のブランド化、PRについて県からの指導、支援をお願いしたい。
加工	外国人技能実習生の受入体制整備（宿舎等）について県の支援をお願いしたい。

# 九十九里・銚子地区からの意見

## 主な意見

項目	内容
資源	チョウセンハマグリなど水産資源が持続的に利用できるよう取り組んでいただきたい。
担い手	大型船の雇用確保について個別での対応に限界があり、組織的に取り組んでいただきたい。
	水揚の低迷により子弟漁家も含め小型船の後継者減少が進んでいる。
流通加工・販売	イワシ類など地元産の水産加工品の原料調達が困難になっている。
	漁港の受入体制を支えている水産加工業者の減少を食い止めていただきたい。
漁港	銚子や外川漁港の港内、道路等の整備を進めていただきたい。

# 地域水産業振興方針

## 千葉県総合計画

(平成29年度～平成32年度)  
県全体の施策の方向性を定めたもの



## 千葉県農林水産業振興計画

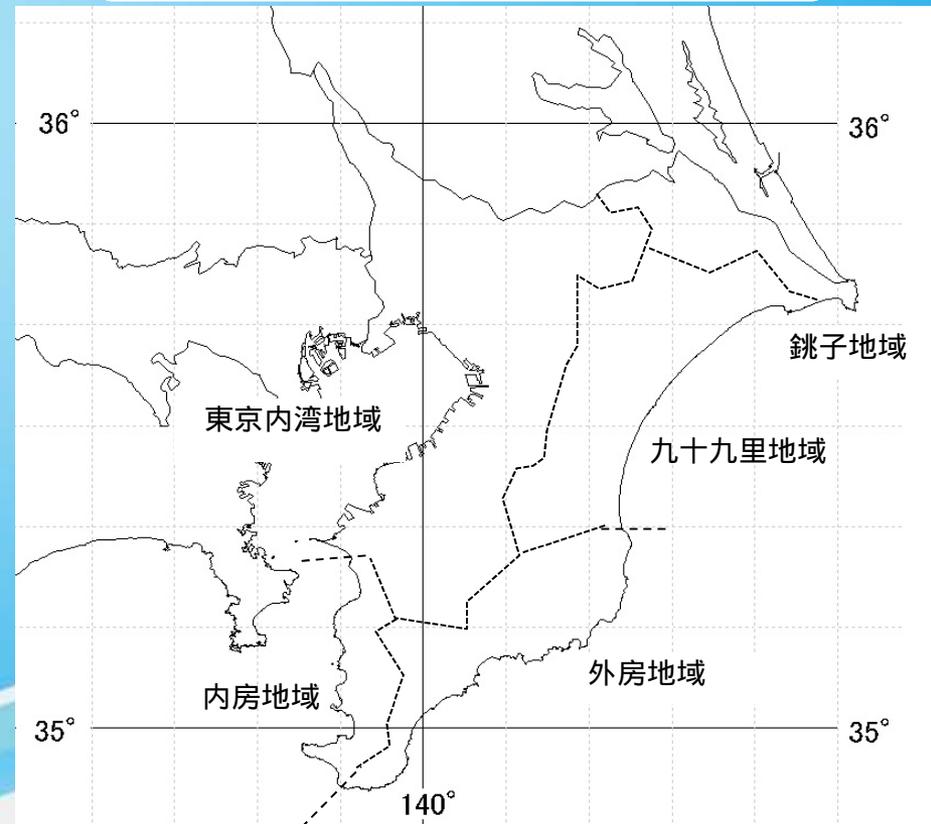
(平成30年度～平成33年度)  
農林水産業の県全体の施策の方向性を定めたもの



## 地域別水産業振興方針

(平成30年度～平成33年度)  
地域別(県内5地域)の施策の方向性を定めたもの

## 地域別水産業振興方針の地域図



陸地の境界線(内水面の地域)は大まかな目安